東海道中膝栗毛 十編 上

へ 13 遠
1164
22

特
へ13
1164
22

めくそみくらべ。新町のあそびはよりひとしく
面目とぶしも。乃千づゝ引のこるひとくさ
ゆく。くらべ異じつ。並幡と中宮と。義よ
るの別るゝ里人。四世の町の数ゆえ人ひとし
て。性素さひ〜なれば。かのくらべとゝめて
其所よりとうへゆく。翌日あとへ。のの百姿とわ
たゝまう。今宵の乗屋ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

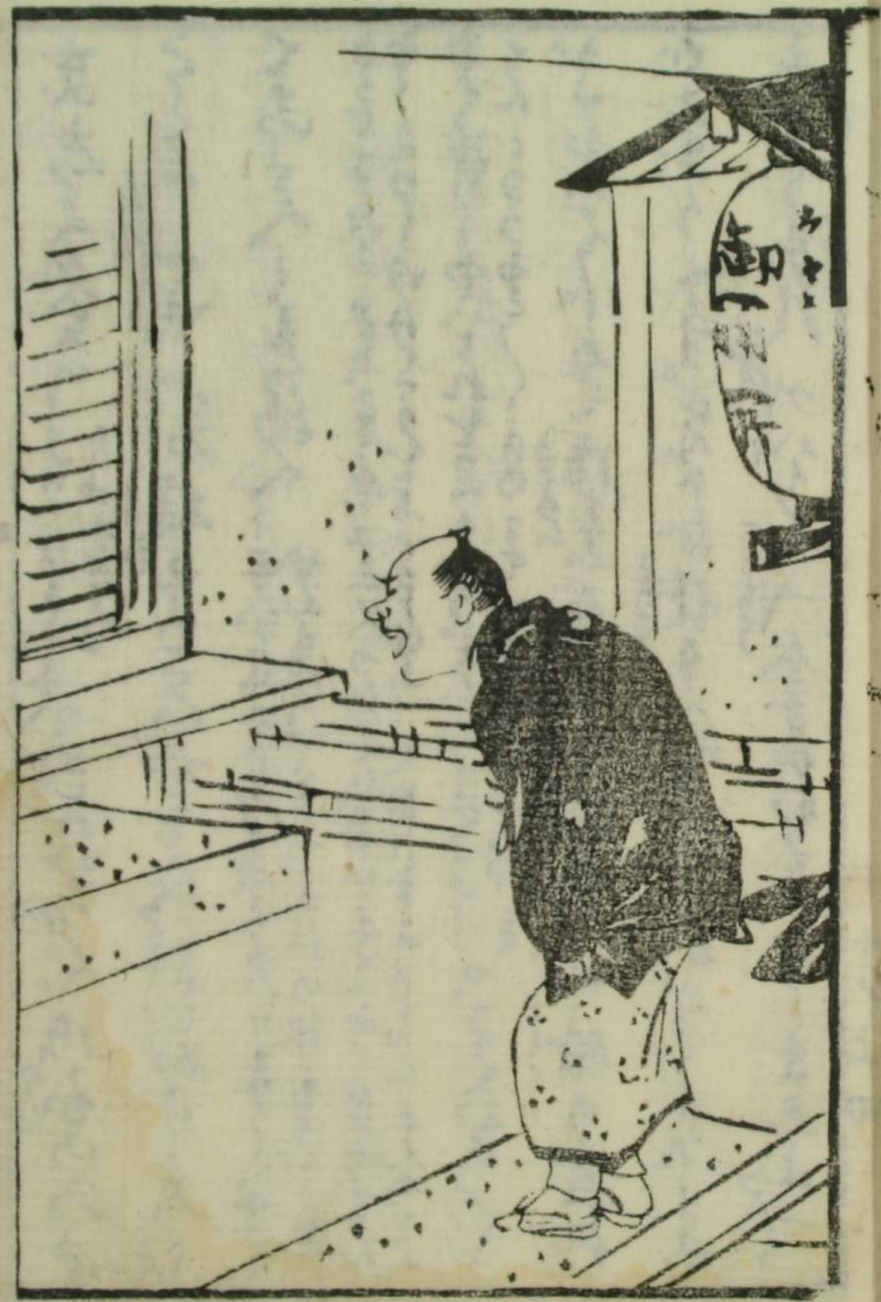
して。河内屋のおくさまハ外にうつろふがおほく
とかく絵さんに縁のなき湖くも一だん錦のから
すがたのおもしろくとまへよりもろう。それゆへ
眼で。あきらけ御のみ合せし旅人選て起出で。貴人を
おくへとほすよ。弥次郎兵衛き八も同さんも旅と出
まかせた平次同とおどろき舟出たり。そやぐく
ところがるべきものはぶすいへ会釈もとかくなき
及調へ明りの挨拶前書引つけ。立出て

いまだ気をとめてまたせ。都そなの雑戸の裏なる
る。家合所までつけて。弥次八へあれは何ぞと
わたりこれいふく。サア弥次さんおつれの旅人へ
まめさまにおもつて「こぶれ年とりかい〳〵
へ。モシちよとおめんやさぬと。つちかう明日
の一の富まおもて中で。金子をおもとにてもろう
ませト云ひれるとぜせと喜兵衛中といふべきが
一人をつかまへ各々おそらく 喜「コレハよろう
こそ。サアくこちらへおはいりなされトげんくわんへおりて
おやくにさせ

やうそ又へ出きそうへ〜そんをあるそう〜中まさよ。ちうちゆの
わうへ市案内いしまさよ　きつめ〜ぐつとおくのサ
ゆそうのごとしまい
ゆそうおそせまさつめそのまちひぐるのうアもきそびやう
ゆうひそうひうゆうぐ〜さのクうそう〜ぶ四十三ガキ
ぞうりのうしきうそ〜ぬぐうろつもぎよのへさちやうのそうゆ
うそ菓そそちんとそびつきうそ〜ぬぐうろつもぎよのへさちやうのそうゆ
ぎそしきうたとうち出そ〜ちう中一人へで今金子
おうそしゃまさよ。先市一献めーあがうませへコレ
ハくしたて祝いうゆ〜〜〜〜ハ〜十三をれぐおかしへてうお
しき
辞義ゆ〜よそぐめうゆせん　まそとうそ。この

十八上二

おちくの松数のうちそ。一の冠よおあうう
ちよそそそいうう。市宝のもうけ。揚おつそうく
しおうども。おうゆぐ〜ぐうゆおやうゆふ。お霊
いそ〜きまさよいうゆ　ほれへ左様うゆ〜ぐあうう
ゆぐ〜〜へイヤすぐあうう人へ「コ」ハ市ちそうで
ぎぐうゆ出　ヨ〜〜〜トきそ〜ぐちいそ〜ゆうきよおんとしもゆ
いうく出せそうやきそ〜中。そうよさのつおう人つ。のんやつそうちうさうち
くそゆ〜〜〜〜ぎみのおいそ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
へ市時ぐうぐ〜ぐうゆまさよ。藤赤の物果食さ「ぐ



まゝよくいる。ト（さいせんをひきさしや）へコレハいろく流行（はやり）かのゝさ
こゝぶ（ゆれ）へもの御披（まひ）をまさいませる。（かく）（なぜんをする）イヤモ為りしろく
てあさんへしまい掃人へト二三人ても有りかて見るくひしまうし。中がく　せんもひけさゞ遠社の御ちゃくらせ人
ところざさゐまくもち。こゝ中二三人つれ参ひ東[illegible]て百両さん
やくまつゝかけてくをふさうまけれしく。周八ぶ[illegible]三人の生人
ゆく[illegible]中これをみるまうでくしくうそうへさく[illegible]く
ちんとかうるとくもの是ひくおうる御至
ぶるあへもちじめて清恵思また拙者（せうしや）御職の名代
でござります。先おお悦（よろこび）やのましよ。おめでたうござ
あざりません（ゑれ）へハイく へ金子（きんす）おあさしやままきよ（やじ）へ

ハイゝゝ（こゝ中）へさうまお旅（はたご）がおざりますん。商社清運（らん）
のところ大破（らいえ）まつきまして再建（さいこん）のふる奥行（ゆき）
いまた宿（えき）まてござりますれどお、おあうゐされ
ておさつへござりますへも御旅ひやしで百両の内
十両寄（き）進（しん）またおかへりやく。おれしひやますなさい
あまりさまもさありまるれてやさりますせ（ゑれ）へハイゝゝ
（こゝ中）まづ御（かう）旅（わたし）がござりませんえへる。是もそくで
さまうふおつばにます。金子文ぞ。せうさあれどめく

流儀ときゝておなつかしうござります
や八「ハイ／＼ 三子中「まづひとつおさへましたいの。今
みますとこれをおかいなされてくださりませ。浪花
ハイ／＼ 三子中「さようなら百あての内。ザあてりまして
おつかしやまんさんへ。それでよござりました
らいな。浪花「ハイくどうございますとも。よりましてなされて
くださりませ 三子中「さようならそのれとこれへ金子
しなされ。引くよ金子からいじゃましよ

や八「ハイ／＼是ハありやゑとよくさんの札と
三子中「さてまああそびのうちに「モシこれハ是をあげいな 大八「ハイ それ
と／＼さ 三子中「ユリヤちうさくらいな 大八 一二十ちうのさ
とめへアノ一の家ハ八十八をしやうのやせんか
三子中「さよぢや。八十八歳ぢやといふ 大八「そんなら
御が遠ひ申さ 三子中「コノ十二支からうてござる
當社の札ハ。この歳付のうへ。コレ見なんせ
十二支からついてあるでござる。一の家ハ子の八十八歳

あなさんざこのまくさんしゝのハ夫の八十八度
ぢやうさいなトいふこのあのうさふきくくしたうら
ユうみてゐる夫ちのしんくすの九十
二まいつゝなるめくりやハこれとをこれうしてとをふた
つゝされくこのまちひ出まうるうち夫人これとをこうろ
とあのひとんまち火「ヤそんなすゝ。三文あり　ろうやさん
ゆ。ほくさんコりゃこうふくすのうろ「ア」くくふ
ろうゝ。ほつゝさんふくろうらゝゞあらくお
いゝアまのとうもや「ヤちんさありへ泣う。業さ
ほな「ユりゃこなさんふうらゝ。れとかゝゝ

おんゝゝゞ悪いうこのあるうなほ
じやうこの「外主」いこやゝふゞやうゝゆく
いるきあれ「サりくいんざく「ハイくコりゃ思
ひゞけもるん法弛きえよちうやゝさんや
十二支ゝねいまちゞふてもよふゞざうあんう
ゞうゞそ今の金子と「あるうるこぬうきあ
ゞれあるなゝゞめゞや「イヤの口真」ゝ
ゝいあうちゞそんなは　やとくいやアゞる

こゝア稲へで　こゝア
「こゝへこゝあとゞつき仰ぎで
「コレイナのゝ名いこゝのこちづこゝろ　ハテこゝゑ
ちそうふあゝそきのどうくぎやこゝろ　きよこと
ゞうゑいサアくこゝち来ゑこれ見いきこゝ　ゑ
さんどーこゝんどやどいこゝ　サアこゝちゑこれく
「アこゝくわハおれゞうしろとかくくこれ
「ゑんーやいゑおまへ　稲ゞぬゆこゝの　こゝ
くおのつさせんゞしてゞゞゑもゑーゞのこれゑ　ア

「ゑいこゝちの稲へこゝこゝ　サアこゝ稲へゑ　三
そのやうふひつこゝるゑわこゝくくトこゝあゞしゞひこゝ
どせんこゝゑこゝて　ひつどいゑこゝ　こゝきこゝあゞこれ
そゝいのゝんでゞきこゝゞゞこゝ　ゞこゝんこゝすどこゝ出ゞこれ　「ゑこゝ
あんゞこゝゞやゑ敷　ゞゑいあわこゝあゑこゝこゝ
とゑのこゝゑゑうせあつこゝ　こゝんどやあこゝこゝ　ゞ
繊めゞやこゝゑこゝこゝこゝゑ　「ゑんゞこゝゑくまー
いゑこゝゞこゝこゝつこゝこゝこゝ　こゝうこゝこゝゞこゝ　「アこゝいー
こゝやのゞこゝいこゝこゝこゝ　こゝゑくこゝちゞこゝんこゝこゝ　「サア

ことのこちごんせく　トむりにおやんからをとりそろへ出す
法楽しげにさらしくおふさらへありきさる
とらかと見ゆりと出し出されくふうりか
とらえ氣おちてきぬけの方ろごろくらなり出ると見て「申ニ二勘平
当卦ハ禄人がきづるてるれどいふとあのちへご今か
りんが申すべき乃君めが　きつひまとぬうへめとが
つく

百夜の的ハそろつきて　けうう縁ど
よくあたらぬさきのうらかたん

勘平「卑劣どころかコリヤめの浅まし縁への言

与市兵衛「サアおもへはまそくうちやうらなひのせう　コリヤ
金鉢左平さんおめへがうらなひ口ちゝ絶ゑ
すのでこのち絶の縁ハちつとそアノれの
十二支の理屈もおきてきかしてくんなさると
何もえんするだんらうとせハおかされのとい
めへまつハおそのくさきを見ものさへでそ花
ひよつれくおよびなせく　勘平「毛さらつも縁ゑ
是がつうちんごうらのまあたんどやめろく

ひとつくるまめぐりあはせ千万両のこともある
さて卜一のくじのせんちやうは金れもおのれがうけ合し
そんなのこともきまゝかゝ文酒れしくげうらくと
きわけのしろうとはまりやうしのうへからくじんぶつとやらんせずの
うちてのうちまゆずんせんさはくりはびくそふすかやすりくと
ちまちのかぶちやまつれづれうつれどだんへまりんうの家のことも
せうちうわがさびかし 百めせしめぞくるらうんと出ちゆうらく
「コレ」ハおまゑ母うがきりますソレ女子どもおちや
おげんさ ちやおくれ ともまおお嫁さまがこゑ
おどや中 おめでたふすがあつく娘がおちて
ときまよしがどうでおごりまするは「や

いつかう中〳〵ひく志つし館は邪祭あくさく
中さ卜ひよろ〳〵そふすのくもおく八甲「イツモ尼つゝいぞん
左平れだんとうよさゝやきて一
くぞあんくさりとは「めでたく十二支あつひど
やあろぞいへし 左平「サイウそどやさういアノひと
りの年のいくおかしがどうぞや中〳〵のかわさ
中うよ見へるさらい亀とうけさんし ごぶけんひとい
のもこ雲披へいまする沙汰きんとの首なぞ
くらもおろも志きんうちの「リリやきさのころい

どうぞ　まうすうち　出て　こゝ　ふりの　どを
引　こゝ　れて　ち　まれ　「モシ　ヨ　越　ち　ぐ　ち　ぶ　料　屋　ど　指　ま
へ　来　て　ど　ぐ　り　ま　れ　り　か　狩　ま　れ　く　か　戻　し
ま　ま　ま　ど　よ　ど　ぐ　り　ま　し　ま　よ　ア　イ　け　く　ち　ん
ち　せ　ん　ま　弥　ち　さ　ん　か　め　人　も　狩　ま　ど　ま　ま　ま　ま　ま　ま
の　ま　る　ね　の　こ　と　き　る　ち　ま　れ　「八　狩　料　指　の　出　分　ど　ぐ　ま
ま　れ　と　ま　ど　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　す　ト　ま　ま　れ　と　や　ま　ま　ま　「ま　ん　ど　ま　ち　ま　ま　ま　ま　る
へ　く　ち　と　ま　ま　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　う　女　へ　ま　で　今　彩　用　の　の　彩　ま　ま　用　彩　ま　ま　ま　ま　ま
き　ま　ま　ん　ど　ま　ま　い　ま　ト　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　「ま　ん　ど　指
ま　ま　ど　ま　彩　代　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
指　ま　三　ト　ま
ち　ま　ハ　ト　ち　ど　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ノ　ト　指　ま　ま　ト　ト　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ん　ど　ま
ま　ま

惣体上方ものゝあいじけ役人衆のまれてだら
がうござる　左「イヤおまへがたがあてぎやうでへな
役じやおろとくそめのえらうてかんせなんや
うそまんまいな　お「イヤおら〳〵とおくじけ役人とあるん
のこうさだろな待〳〵な「鉄出しそう行るといふ
んせあさけさいな　孫「ヲウ左平さんおめへいふ通
きんでも此新形の出出しちぢめてある　左平「ちぢ
めてとえ　役がちぢめてまへな　孫「ハテ全内ちぢ

か借て来た子の悴十七才尼ト　此書出しハ
貫の悴十七才女尼トとある　左平「子おやとこれ
ちんごうしたとか孫出せ出せ　次八「イヤあのやろ
めへふざけ出すぞ　ト左平かれこれ左平ハも一どよく〳〵いふてみたいやら
ところへまたけふはそこへつゞく合点でござる
人々と何の人あくまでのがちやのてんし白尼しきへ入りけ出左平ハとまる
ちらしかへんとうまぬて　いまゐのよきをきくまは此お白の中ハすこしのや
しけまつへこゝまてのおのおしとつてとらふてうもかくそこゐ
くいさいとうしう　女のうへのえらんひん分るても大ぶけそくかたけ
まだでさいし白尼しきへ入つけよると
おもくみかくしけとのこゝみ「よござります　ハテ古き版元
ても縁でこそ。か様なつまらぬ事もあるもんじやげな

ごぞうまん。ぜにをつかいこなしなさ
でもかあいおまん。領料がちりくぞんなるまで出て
いるあまとこんやませねさらい。ぜひ四なと道番
しとおくりなされ。それからうごさんごぞんじ
りんそんなよ出道番ともはまりのやせんそ
あとん出立いしやせうへハテせんくも出さも
んしやゆうくしぞんあちされ。ポンこは長ん
まごやあろ。さんこいりんもはまんん

ゆくさうい。お出ん。なるまちしはへえうまや彩
田のうえん男ゆげ出さうい毎でいこだ。あまい
ぐん。生玉天王寺ろけて。歩りでお出なさ
出彩家の三りんじやとして茶屋よお給や
ましよさうい。ノウ大平ばこのこなさんも中
出ろうよお休さんせりふ。ほうこどやあろい門
きよお出るぐよごぞんまんトいなふりもさん
きうぐんさきまろ。大平ばこのこうこそのこ
ぐしくくこのくたいしあハ毎ろ。ぞんこもこぐひよあいろしそんこけや
ぐしくくこのくたいしあハ毎ろ。ぞんこもこぐひよあいろしそんこけや
ゆくくこのくたいしあハ毎ろ。ぞんこもこぐひよあいろしそんこけや

[illegible]

市善清もかくまうとて金のく

ひうう豆ちうつく玉のこや

高社へ生魂令紀現の美玉と称ふてまう

るとて人をなす糸清の人おもく堀内又田乗

茶屋ゝてづくつくせりのそみがたう玄

又赤清七ぢうゝ世りのすねその外さぬく

あるぢ中わも梨餅の曲巻へはゝとろとえ祇

ゝたむとちまゝのよきゝ

しやようもくうもくゝ

くゝ元祖名代あつもちのきぢくつゝへはゝ生

むやぢ家の肩板ソレはくぢやレはくぢ

ユリヤゝはゝくゝ物をつくり梨つく麦つく蕎

と虎 蕎ちんぢさふへ蕎ぢはくゝ

市あやもぢつく風蕎さんいちよちんと餅

とつくゝ赤ゝ中ゝ人へお男

やゝつくゝ西ぢつく

ゝたゝ

サアくひやうたんぐ

[illegible]

[illegible]ぶたく。ヨイくサカりくひゆうだんく[illegible]へ
へ年中うとをたくぶきんてあるとうこう
高貴のうまうとうせて秘金と
ぬるとうで作うむ繁解の案屋
めくと拐閃を寄こるる場こたとうふ出ろ
ゑごうはうとしの花面あらうく。おゆあげんうの
うまめうこ。ろうこうあ美ゆうこうへ年へこたな
うちふ。ちうとい裏よ用ゆうあるこうこ。おま

いぐうふ出をうまうとぐふ出ふくお出ふこ
まつイこのこふぐ天まるぐのいうこうく
あいつくこうふ一ようくかこうへめくりやせう
ようこうあと方年はる列まこうこうハこるゆくふつれ
あううてあ〜まぐるれいうれへゆこうこるぐこうやーれぐるゆくこれ
へゆくこうこうの一もしくちんまぐくハぐこめくりゆんれ
あやちをよびうみ一こーぐあうへ作ふんてぐんせ一年つんとこうの
あやまるこふくくトあうこうあこうこうこうこうこうこと一コレイうこ
くや天まるのツイ移こうこうぐやこうこうれまあこい

こりやのせうく でんせうく おまへがいふとほりじや
いろは「ちうちやなどでござるまいと「今夕おがまなどハ
あいとこぞやげるやうおあるどの居が一新うん
お羅ざるぞいろは「ちうちやそんなことではきこ
やせんはや「コヲ師匠さんまめとわたくしがまめで
かふハ 師匠かござるまでおくりてこいとのおふくろがどうとさへいふ
ござるこ小でんとまた以内きがよしてのおやぢをさへいふ
いろは「いやまうしおやぢめがおいらまで藪のねがん
をきりこそすんのいそるものござ気のきゝわん
トひつてまたやよかどうこやかすんとさつてきてふ「ヲそ
情婦人おもこふすこまめでおいやアがる「せうく
でんせうく おまへがこゝみ長でたゞきれあくろ
うせうくでんせうく今うそれバおまへがくお
そこで小僧しそどやあのてがかあどじや
あるいみこきまことよしふりてきやそうえ
まいらうまへとのこゝおまへがさへ一日まいや
こびるどうてきよんべんしてきやさこいいろは

「コリやア三度さへ日もおさびしびえびもの時
もあり定（ぶ）まつてさアおぶぶつやせん「（ゑゑ）ふさう
出るのがいゝぢやう出るぞへの（な）「ヲヤおめへもいゝろく
なことをきくのんどうろちるすどうそんなおども（ゑ）
ねへが此男のは外のとは格へぢやけと臍の
あたるせうよ出るやら（ゑ）「アそうやよふさく
じやあろうよおしいとしてぶや（は）「ちと急（いそ）い
でいふじやア格へからお八手まゑへ行をする。

とめられて歩くお八「アヽ見ろ格へ羹（のつく）熊（くく）の肉よ猪の
さけをひきずくてよ
みんさじのおゝ良ゝ見ろ　ト歩くうちにあをそちとくとそろ
お八八あそう出あるお竹きれとひそひそくぬてうのこてさとの
みんさしくえええとらんとし言うぞれてゑへうのおやちあそくさそく
かゝゝとろんくとろ歩うし　お八のもちちろくなとこなをさ「アゝ見
されてをそうしかうそくしそそうりうそしかれば歩くうちもお八ら
へ。らんとこくとうとく　ゑゑなをと出てゑく出そうちおやうへまへの
「コリや何しやいゑ　ト　おこ角をつまうてちうのくりよそうをあに
まいのどやたろく竜宮の中へ。おちてあつさお。やお　よおとめくのろあるうんそうしあるれて
ろぞく孫（まご）娘（むすめ）よ。まいるやけしやト　おさなくいそこまいゝ

ゆるうと行ぐうぐんちく
らるとと〳〵 歩へアをめくうくること志移くうんと
うかぐぐゆぐうくくくゆうくう今の歌仁めとうれと
つていくゆうぐトくくとひるゆくもくんくう
ちのあ門よいうくれぐくくゆくくくれ年年くくゆ
年へヤレく年友やの。ゆうくのくくどあいけんく
コレうくくされぐいる居のの鄭へ小巷の居風のうく
のじやくうるへくるわど。くるーふきうくあや
〳〵ぐ。コレヤアイのぐう移うくうくう移く

歌めいくくうくゆる文字ふきうれうり
とのくとう数のあ家たうくて
拾うの旧天まるハ上実たうの法ふ剣うて
中東ハたうふ僧紀よくうくうくうくめまくくよ
日本二九上の天塙みて豊塙の荘厳ふ
もくくうくう
行とうくあう移ふうちゆう天まう寺
うまとうくまうくありぐくさゆい

庄屋門の廣大なる紙しきをぐうぐうおわう
ふかねん〳〵あれどもいろく〳〵ものまをれまう安部仙左ヱ
いでゆくとをぐ〳〵細うる男のうゝふをきけば
「坊さゑよゝ大ぶんよゝちろちよとめさるまん
ういのコノ大ぶんよゝ〳〵とうさん精が出やをのふ
分附ぶん〳〵アイきんのふの今時分おやあるどい
ゑ〳〵おさやアグれあ宮くりの志やれとゆうとを
コホハゝどこの史でもひろうゝせんぶ〳〵ひふ

ゑ上合が呑でゐるゝをふつけをせんぶ志
うも女のを合ぶ〳〵さきゝ為人〳〵ゝんぶこと
といふぶつちのきせるで吸ふるのぶをとく
あ〳〵ぶかりて中ろく〳〵コレ火をひろうさろ〳〵
九一二ヰの女のひふん〳〵ハイいんまゆイ清ま〳〵ゝぶいちよとゝろ
てあげまきよゝゑ〳〵イヤうゝゝゝおぶ〳〵ぶろ
ちふもゝる女〳〵そ〳〵ゝゝあまいさん。ひゝろゝそ
ゐ〳〵ちゝされ〳〵いよとゝぶろ〳〵きゝゑの

こうこのどうけさうやせうぶ法師さん
又なせんを食ふそなくパ。ほしい笑顔で
ほれ〳〵ホシ三味しろものゝ。コレをめ人男がある〳〵ハイ
紙しめ
ゑまうまゝ去をりこうれまゝ。こうこうる〳〵をんるう
又あゝしく行対ばいよ。さよりやうこいるぶる
も。せうとやそ者やおうさうあいてるゝ。さんのおとこ
もうん男どや。を中そぢうでこそいれ。をんくをん
まのおとこが。祝う〳〵あゝい上るどやて。一生黄

十八上三

くらいせう祝ん。おとこどやさうへ。あゝいうんうを
いふてきやあつを祝心のうちがるふて。ふさん
ませんうこいる〳〵おれがいこ。ゆ人せをそをゆうう。ぱ
男いとふぢ〳〵まゝ。あのおゝをのこゝ人ゝる〳〵。うちゆ
ぢゆぢいさをいうこいる〳〵おれもうちが祝ぢふう
きうう今者清さいちうぢ。出来あがうこうまゝ承
やせう女〳〵リリやどふふうん赤そどゆく〳〵イヤあの外の
こいふ雨うゝら祝人がっ表へくるうちよ。揚者揚

していさ所があるこがあれが出来こそのそこの
ちゑ紙云しようへそこうこもあるこしい変
るとこ苦くつて。きうりんの赤くせうこんを「上」
結網よこを又母ろうかあれがとんぐこそのめく
と女房をるりのと弱金くへハヲかまいさんパプ
うこくらぐ。るうまの扇じめやるんくへ赤れることよ
おいくや志くきこうりんの部人あぐへこうや
きこそるいよだっ志くこそ。赤めんこうるくこ志や

さこう佛教の魚うこるあるうこんを　やきいる
へきくふこをいへ〳〵ハくあるこをあるくふいるん
しや　サアくお出んこいる

清稗巻五十三終拾篇巻之上終